

第2章 伏見城跡（明治天皇伏見桃山御陵）現地立入調査

1. 現地立入調査

立入調査の参加者（2月12日13日両日とも同じ・敬称略）

宮内庁書陵部陵墓課：[REDACTED]

福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課：[REDACTED]

株式会社徳岡伝統建築研究所：[REDACTED] 武田石材：[REDACTED]

株式会社共和：[REDACTED]

京都府立京都学・歴彩館：[REDACTED]

以上9名

その他、陵墓管理の方が両日とも数名ずつ同行する

※注：調査写真は一部広角レンズ撮影の為、端に歪みが生じている場合がある

1) 2026年2月12日（木曜日）の立入調査

朝8時40分にJR奈良線桃山駅に集合し、西側から入る参道を徒歩で伏見桃山陵監区事務所に向かう。道すがら、今回同行の伏見在住で京都府立京都学・歴彩館の[REDACTED]から陵墓に関する話を聞く。途中、参道脇に展示してある桃山陵の下水道工事の際に出た石等を見学する。9時30分に桃山陵墓監区事務所に集合の予定だったが、早めに着き、監区事務所の[REDACTED]、宮内庁書陵部の今回調査に同行して下さる[REDACTED]にご挨拶する。御料地立入には[REDACTED]の外に陵墓管理の方々が数名同行される。

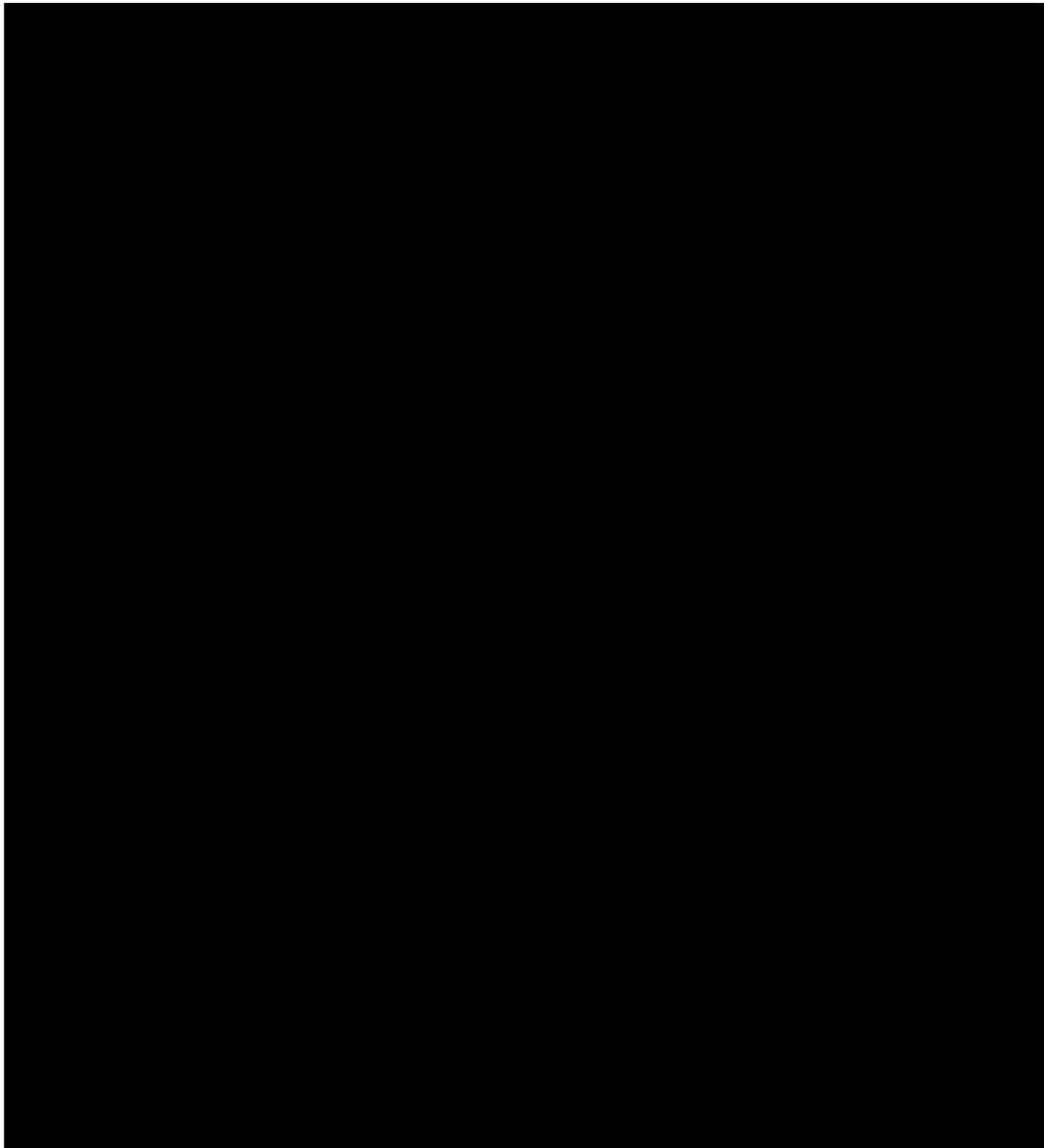


参道脇に展示してある城内から出土した石



監区事務所から出発する

【2月12日午前の調査】



2026年2月12日午前の立入調査順路

「桃山陵墓地 図」（陵基地形図集成〔縮小版〕/宮内庁書陵部陵墓課 編/学生社 刊）より転載
図の部分に郭名と順路を加筆

・桃山陵墓監区事務所前～空堀～二ノ丸

立入調査をするエリアは、桃山御料地内ではあるが、陵墓そのものではなく陵墓の裏側にあたる。明治天皇陵は伏見城跡本丸の最南端に当たり、陵の前の広場は四ノ丸の増田右衛門尉郭に当たる。昭憲皇后陵は名護屋丸の南端に当たる。調査地へは明治天皇陵脇の御休所の敷地から入り、比較的歩きやすい山道を北上する（①）。この山道はちょうど本丸と二の丸の間の空堀に当たる。「陵基地形図集成〔縮小版〕」（宮内庁書陵部陵墓課 編/学生社 刊）の「桃山陵墓地 図」に書かれている線の通りに陵墓内に道があ

るとの事。伏見城当時の道では無く、その後江戸時代を通じて山に入っていた村人が使っていた里道だろうとの話。途中道の脇に倒木がいくつも見られ、根土が付いたまま倒れていた。根土には砂利状の石が多く混じっていた。裏込め石や碎石の多い地層があると根が深く入らないので、木が倒れやすいのではないかと思われた。歩く道周辺はそれなりに整備され、ところどころで切られた木が道の脇に寄せられていた。道以外の部分は普通の里山のような植生で、真冬なので下草は少ないものの歩き回れるような状態では無かった。



①空堀を北上する



②二ノ丸から本丸へ

・二の丸～土橋～本丸天守台へ

明治天皇陵北西角あたりで東西に渡る土橋を渡って本丸に入る（②）。この土橋が伏見城縄張図からある本丸と二の丸との間の通路と思われるが、通った時は土橋を渡ったという記憶が無い。空堀を介して本丸と二の丸（西丸）をつなぐ通路は、第三章の絵図リスト 1) -1 の浅野家文庫の豊臣期の縄張り図にも存在し、1) -2 の内閣文庫の縄張り図にはそれが土橋とも書かれているが、今の土橋が城のあった当時のままかどうかは不明である。

本丸に入り、更に本丸の中を北東方面に向かう。道の途中の小さな丘陵に石垣の石らしい石が初めて見える。ここが天守台跡で、丘の中ほどに、明らかに石垣の石と思われる横並びの石が4個確認できた。また、周囲にもいくつか石垣の石らしき石が転がっていた。横並びの石は、いくらか外されかけたような状態でそれぞれ傾いていたが、その石のすぐ下に更に石が埋まっていたので、これらの石は元の場所から外されて転がっているのではなく、そもそもこの位置に石垣があったままの可能性が高いと思われた。石垣の残石の周囲には裏込め石と思われる拳大の石や、それより小さい石が散乱しているのが見られた。松ノ丸の調査が主なので写真だけ撮って先を行く。



③向こうに見える天守台跡地



天守台跡地の石垣の残石

・本丸天守台～分かれ道ポイント～松ノ丸

天守台跡を左に見ながら、更に東北方向に進む。左側が谷になっている道を道なりに緩やかに下っていく。道が二股に分かれている部分から松の丸側に入るが、明確な入口はわからないが、ここを仮に「分かれ道ポイント」とする（④）。更に緩やかに上って行くと、道に裏込め石と思われる石が散乱している場所がある。それを超えると、竹林が見える。ここが松の丸の中央部から北東寄りの部分に当たると思われる。途中で道らしい道は無くなる。比較的歩きやすい部分と、竹が密集していたり藪や枯れ枝で歩きにくい部分とある。藪や枯れ枝を踏み分けながら進むと、北東角辺りのエリアに、残石が、ここに一つ、あちらに一つと見えてくる。石ははじめ枯れ枝や土に埋もれていたが、同行して下さった陵墓管理の方が、枯れ枝を寄せて石が見えるようにしてくれる。この方々が終始歩きやすいように、木を切ったり枯れ木を寄せて下さった。



④松ノ丸入口の分かれ道ポイント
右へ行くと名古屋丸



松ノ丸の道の途中で倒木の根とその側に裏込め石が散乱しているポイント



松ノ丸内の様子 奥に竹林が見える



⑤東北角の先端で「基準石」と呼んでいた目立つ石



松ノ丸の残石 比較的平面が揃っている

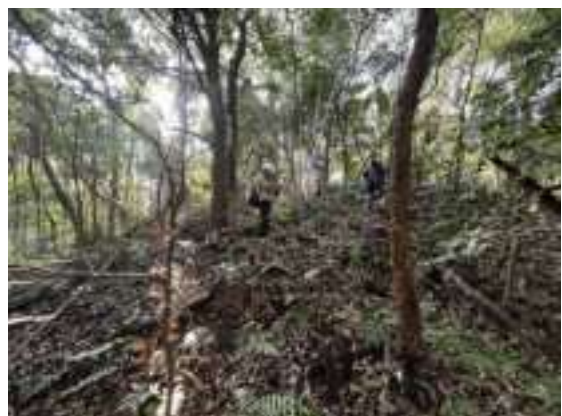


松ノ丸の残石 火災痕か表面がひび割れている

松の丸の東北角部の東櫓があったと推測されている付近の石を確認し、写真を撮る(⑤)。大阪歴史学会の「伏見城跡立入調査報告」の図 87 東隅櫓礎石の残存状況図に基づいて、用意したチェックリストに沿って確認した。詳しくは、後述 2. 松の丸の残石チェックリストを参照。役所チームは北東角の崖に降りて崖の形状を糸を張って確認する。



松ノ丸東北角の一段下の帯曲輪に降りたところ



帯曲輪から松ノ丸東北角の崖を見上げたところ



松ノ丸東北角の崖で横に糸を張ったところ



松ノ丸東北角の崖で横に糸を張ったところ



松ノ丸の帯曲輪から更に崖下の竹林 隙間から橋
フットサルグラウンドの建物の屋根が見える



松ノ丸の帯曲輪？東側の倒木

・松の丸～分かれ道ポイント～名護屋丸～紅雪堀～桃山東陵

昼近くなったので一旦監区事務所に戻る事にする。松の丸南側の分かれ道ポイント（④）を南東へ向かい、名護屋丸へ入り、緩やかに坂を降りて行くと道の向こうに紅雪堀が見える（⑥）。それまで空堀ばかりだったが、水のある堀を見たのは紅雪堀だけだった。紅雪堀を左に見ながら、更に坂道を降りて行き、名護屋丸の東側に沿って南下する。道が広く平坦になり、桃山東陵前広場の東側に出る。

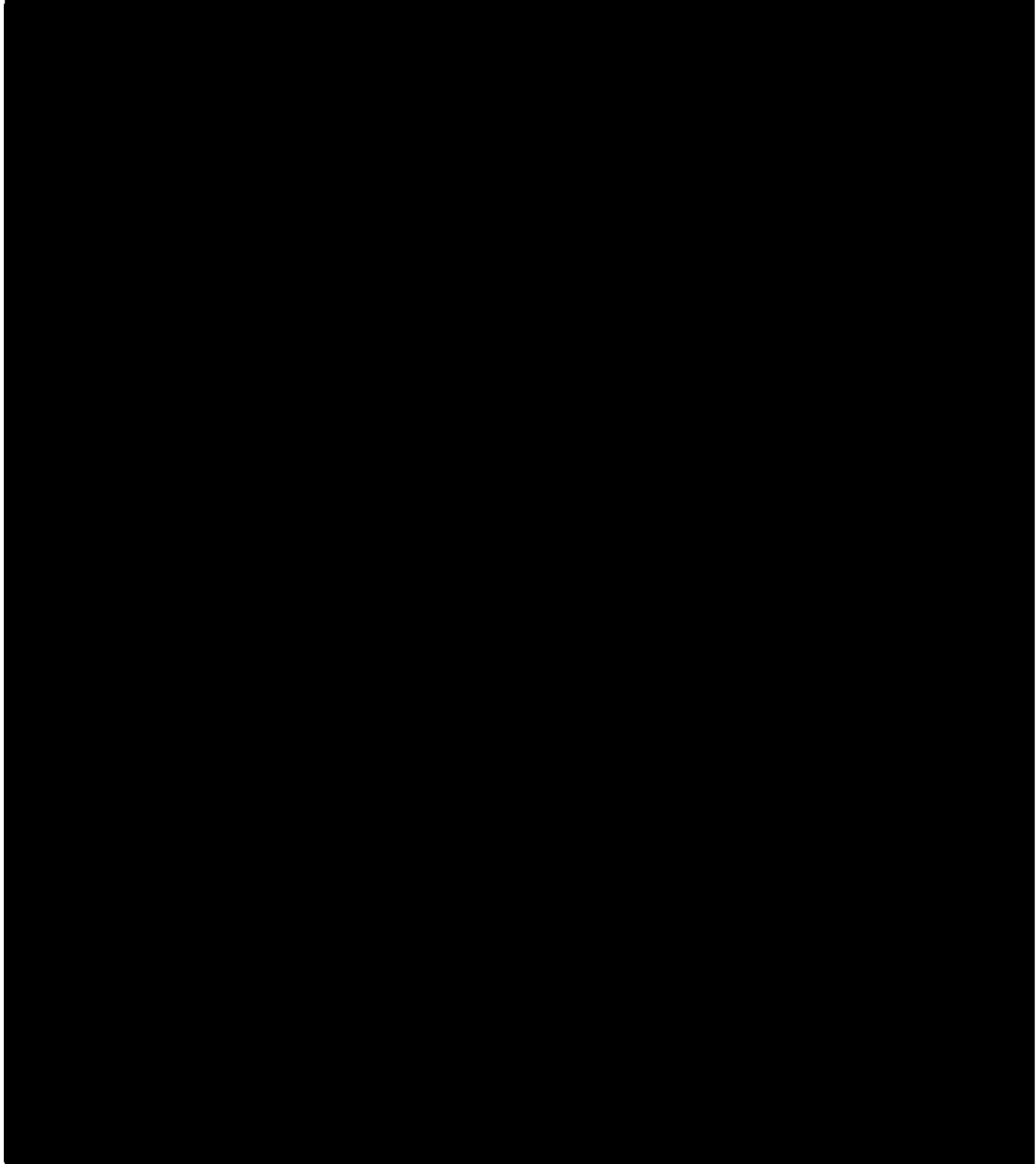


④松ノ丸南東の分かれ道ポイントで名護屋丸へ



⑥名護屋丸から紅雪堀を見る

【2月12日午後の調査】



2026年2月12日午後の立入調査順路

「桃山陵墓地 図」（陵墓地形図集成〔縮小版〕/宮内庁書陵部陵墓課 編/学生社 刊）より転載
図の部分に郭名と順路を加筆

・二ノ丸から松の丸東側、更に西側へ

午前と同じルートで入り、空堀を北上し、二ノ丸から本丸を通り、本丸北東にある松ノ丸の入口の分かれ道ポイントを通って松ノ丸に入る。北東角の「基準石」と呼んでいた一番目立つ石を再度確認する。方位を見ると、石のすぼんだ側が磁北より少し東寄りを向いている。そこから帯曲輪と思われる崖下に降り（①）、糸を張って確認する。更に松ノ丸の西側に移動し（②）、崖の形状や崖上から崖下の帯曲輪までの高さを確認する。



①松ノ丸北東の崖



①松ノ丸北東角糸を張ったところ



②松ノ丸西角の崖



②松ノ丸西角の崖



②松ノ丸西角の崖 下の帯曲輪から見る



②松ノ丸西角の崖 下の帯曲輪から見る

・松ノ丸西側から出丸への土橋へ

松ノ丸西角の崖下から出丸に渡る土橋へ向かう (③)。土橋の両側は竹が密集している。土橋を渡った先は境界境で行き止まりになっており、フェンスが設置され、更に数メートル先にもフェンスが設置されている。このフェンスとフェンスの間に鹿の作り物の人形が2頭、グランド側を向いている (④)。この鹿のいるエリアは隣地に当たるとの事。鹿の向こうには、伏見桃山運動公園の多目的グラウンドが見えていると思われる。



③松ノ丸から出丸への土橋



③松ノ丸から出丸への土橋の行き止まり



④鹿ポイント/フェンスの向こうに鹿の作り物
外は北側にある橋フットサルグラウンド



出丸側から土橋を見る

・松ノ丸から本丸への土橋の石垣の西側

出丸への土橋を松ノ丸側に戻り、そこから、松ノ丸から本丸への土橋の南西側に寄って石垣を見る。これが土橋の西側にあたる。石垣は3～4段分見えており、その下は土に埋もれている。崖下には比較的大きめの石があちこちに転がっており、その中の一つの表面には、割れやはじけたような跡があるので、伏見城の戦いの際の焼けた石の可能性もあった。ただ、ここの土橋の石の積み方が芋（芋目地のように石の継ぎ目がまっすぐ通っている積み方という意味）」になっているので崩れやすく、穴太衆のような高い石垣を堅牢に積む専門の石工集団によるものでは無いのではないか、との話が出たので、城が破却された後に成立した堀内村の村人が、郭の中を通りやすいように、残った

石を積み直した可能性も考えられた。また、第三章の 2) の解説にもあるように、江戸後期には何度か、郭内の木を伐採して運び出した記録がある。



⑤松ノ丸から本丸への土橋の南西側の石垣



⑤松ノ丸から本丸への土橋の南西側の石垣



⑤土橋の崖下には石が転がっている



⑤焼けた石と思われる表面

・本丸の天守台

崖下から本丸に上がり、道を南下し、再度天守台に寄って調査する (⑥)。天守台の上に上がり、縦横の概測をする。頂上は比較的平らだが、木が生えており、天守の建物が推測できるような礎石は全く見られなかったが、その天守台の周囲には、先の石垣の他に、比較的残石が見られた。また、裏込め石と思われるこぶし大の石から、もっと小さな石も周囲に散乱していた。



⑥本丸の天守台の石垣の残石



⑥本丸の天守台の石垣の残石



⑥本丸の天守台の石垣の残石



⑥見えている石の下にも石が埋まっている



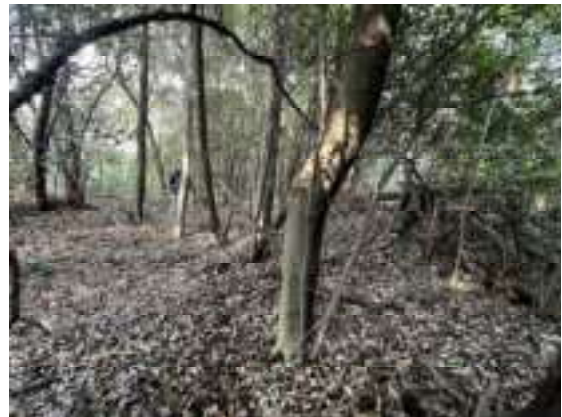
⑥左から二番目の石には矢穴が残っている



⑥石の面は大体揃っている



⑥天守台の上で大きさを見る



⑥天守台の上で大きさを見る

・陵墓外調査：小学校に保存された石垣～旧キャッスルランドの伏見城

陵墓内の調査が 15 時までと決められていたので、その後の時間で陵墓外に残る伏見城跡を見て回る。JR 奈良線の線路沿いの「伏見城御舟入跡」のポイントを確認し、そのまま東に行き、京都市立桃山東小学校に移設された伏見城跡の石垣を見学する。看板によると、昭和五十二年（1977 年）に桃山調紅雪で発見された石垣を移設保存しているとの事。石垣には矢穴や刻印が残っていた。

小学校から住宅街を北上して、伏見城北側にある伏見桃山城運動公園エリアに入り、旧キャッスルランドの博物館施設だった模擬天守の伏見城を見る。これは昭和 39 年（1964）に、林原美術館所蔵の洛中洛外図屏風を参考に作られた天守と言われている。耐震強度の問題で現在は使用されていないが、天守台の上に五層六階の天守と三層四階の小天守が、本格的な大きさで作られていた。



伏見城御舟入跡



移設された伏見城跡の石垣



移設された伏見城跡の石垣の矢穴

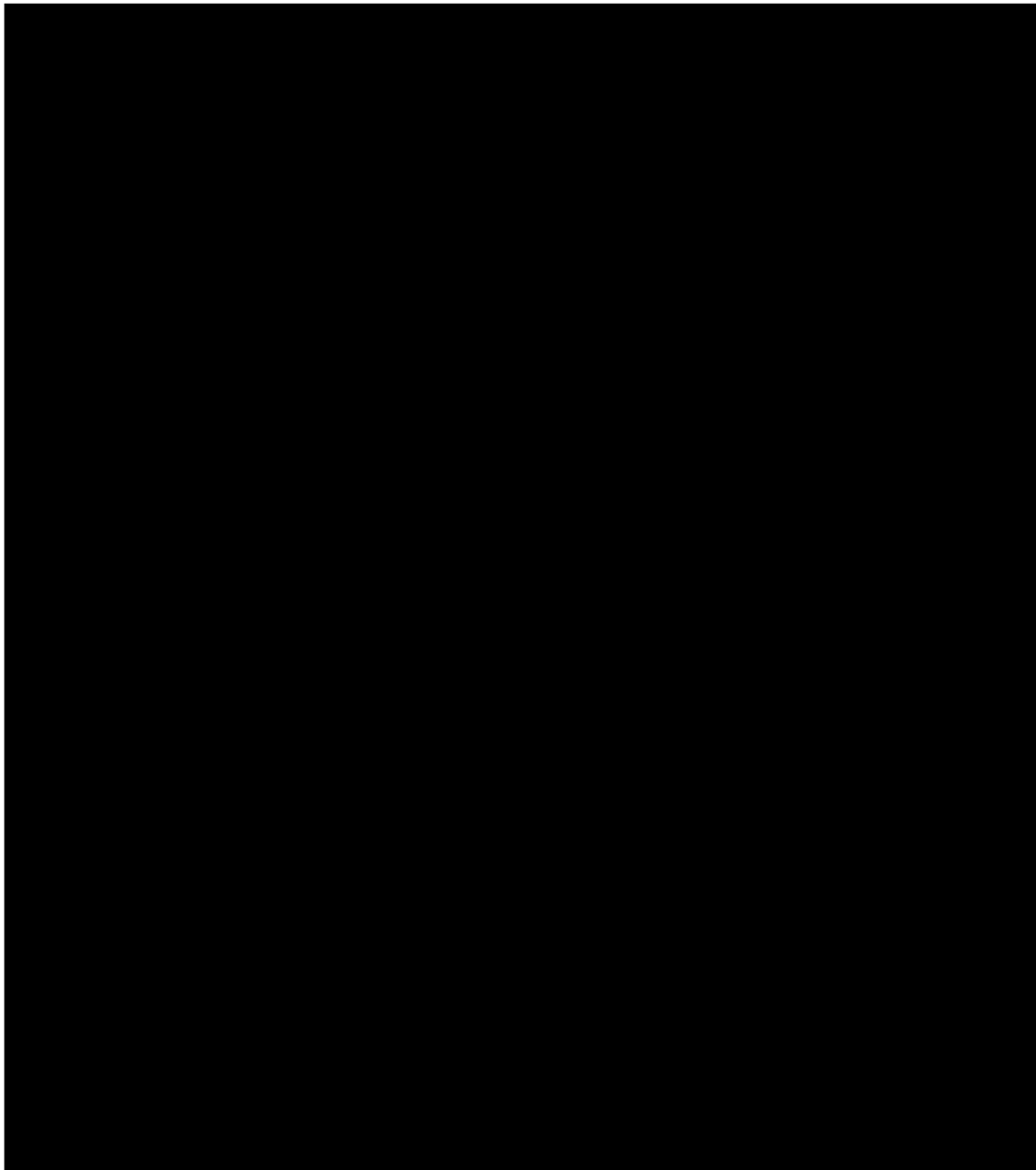


旧キャッスルランドの模擬天守

2) 2026 年 2 月 13 日（金曜日）の調査

昨日と同じ朝 8 時 40 分に JR 奈良線桃山駅に集合し、西側から入る参道を徒歩で桃山陵監区事務所に向かう。参道で■■■■より陵墓の植樹寄付の石碑の話等聞く。監区事務所で書陵部の方々と集合する。調査メンバーは昨日と同じで、福山市職員 3 名、徳岡側 3 名、宮内庁書陵部の■■■■、歴彩館の■■■■を含めて計 9 名。それ以外に、昨日と同様、御料地立入には陵墓管理の方々が数名同行される。

【2 月 13 日午前の調査】



2026 年 2 月 13 日午前の立入調査順路

「桃山陵墓地 図」（陵墓地形図集成〔縮小版〕/宮内庁書陵部陵墓課 編/学生社 刊）より転載
図の部分に郭名と順路を加筆

・桃山陵墓監区事務所前～空堀から金明水井戸

昨日と同じルートで御料地に入る。空堀を北上し、二の丸へ上がり、二ノ丸から本丸に渡らず、そのまま道を北にまた空堀に降りて、二ノ丸と本丸を東西に渡る土橋を北側から見る (②)。倒木で覆われているが、その隙間から土橋の石垣が見える。この土橋の石垣が、もし第三章 1)-2 の内閣文庫の縄張にも見られる土橋であるなら、秀吉築城期からある土橋の可能性もある。

また道に戻りそのまま空堀を北上する。少し高くなったところを超えると左側に矢穴が4か所見られる石が転がっている。矢穴の大きさは一番はっきりしているもので、口長辺 100、口短辺 30、深さ 90 程度であった。石全体の形状は殆ど埋もれているので不明である。更に北上すると、本丸の北西側の崖地に残石がところどころ見られた。そのまま道なりに北上して緩やかに下って行くと、東西に伸びる道に突き当たる。その右手前に「金明水」と呼ばれる井戸の遺構が残っていた。木や石で井桁に組んだ井戸枠は無く、ごく普通に石積みした長方形の穴に、落ち葉の混じる水面が見えていた。本来なら城中の井戸には上屋があるはずだが、そのような痕跡は見られなかった。



①二ノ丸から本丸への土橋の上



②二ノ丸から本丸への土橋を北側から見る



②二ノ丸から本丸への土橋を北側から見る



②土橋の石垣



③金明水井戸 来た道を振り返る
奥に見えるのは本丸と二の丸の間の空堀の道



③金明水井戸



③金明水井戸ポイントを右に曲がって杉木立の
中を東に進む



③金明水井戸ポイントから西の方向を見る

・銀明水井戸から出丸の土橋へ

金明水ポイント（③）を右に曲がり、東方向へ進む。この東西の道は比較的広く、杉木立の中を通っている。進行方向の左側（北側）にまた井戸跡が見える。これが銀明水（④）だが、四角く石を積んで作った穴はあっても水は見え、ほぼ土や落ち葉で埋まっているように見えた。金明水と同じく、周囲に井戸の建屋があったような遺構は見られない。北側の木立の向こうは伏見桃山城運動公園で、野球場やグラウンド等がある。木立の隙間に見えている屋根は、昨日旧キャスルランドの模擬天守へ行く途中に通った、野球場そばのトイレ等の屋根だと思われる。

更に東に進むと、松ノ丸から出丸への土橋の、出丸側に着く。土橋の北側の行き止まりは地面が盛り上がっている。その先は昨日も見つた二重のフェンスになっていて、間に鹿の作り物の人形が2頭いる「鹿ポイント」である。竹林の中の土橋を東へ渡り、松ノ丸の西側崖下に入る。



④銀明水井戸 落ち葉等で埋まっている



北側の木立の向こうは野球場側の建物と思われる



松ノ丸への土橋の出丸方向側へ上がる



⑤出丸側の鹿ポイント



出丸側から松ノ丸側へ土橋を渡る



土橋の中程にポイント杭がある

・松ノ丸西側の崖下から松ノ丸へ上がり残石調査をする

道は土橋からそのまま松ノ丸の西側の崖下が続いている。松ノ丸に上がる道は一度折り返して斜めについているが、崖をそのまま登って崖の形状を確認しながら松ノ丸に入る。



⑥松の丸西側斜面途中の道の折り返しポイント



⑥折り返しポイントから松ノ丸北西斜面を見る



⑥折り返しポイントから見た松の丸北西斜面



⑥松の丸北西斜面の残石



松の丸北側斜面を見る 左下は帯曲輪の台



松の丸北側斜面を見る



⑥折り返しポイントから右へ上がれば松ノ丸



北西斜面を直接登って松ノ丸へ

松ノ丸の上では、北辺の西側寄りから、ところどころに石が見えるので、写真を撮りながら間隔を測っていく。石は確認しただけでも 12 個あった。大阪歴史学会の「伏見城跡立入調査報告」には 18 個ほど写真が掲載されていたが、時間の余裕も無く、地表は枯れ枝や枯葉に覆われているので、今回はサンプル調査のみとして、それ以上は調査しなかった。石はおおよそ直線状にはあるが、完全に直線に並んでいる訳ではない。やはり、一度外されて、外された近辺に残されているような感じを受けた。

石の間隔は、写真に写り込んでいる紙の□の番号順に、**1**、**2**、**3**、**4**、**5**、**6**、**7**の順で、5200、900、14210、590、7900、5600 の間隔で並んでおり、後から見つけた**8**は、**6**から 2000 離れた所にあった。**2**、**3**と**4**、**5**は隣り合って並んでおり、**2**、**3**はかなり崖側にあった。間隔はそれで建物の柱の位置がわかるほどの正確さは無い。崖際というよりも少し引いた場所にあったので、塀の控え柱の為の礎石というよりは、多門櫓か渡櫓でもあった礎石のように思われた。

石は礎石に使いそうな、上面が比較的平らなものがいくつかあり、特に**7**は 1400×750 程度の大きさで、上面にアール型の加工のようなものが 2 か所並んでいた。石の大きさは、他には**1**が 750×750 程度、**8**が 900×600 程度と、比較的上面が平らで礎石として使いそうな大きめの石があった。石は**1**より前にも数個見つけていたが、その時は番号付けをしておらず、間隔も図っていなかった。北辺の石については、後述する 2. 松ノ丸北辺の残石チェックリストを参照。

最終日で時間も無いので、そのまま東北角地に移動して、「基準石」と呼んでいる石のところまで行く。「基準石」にスマホの方位画面を置いて北を確認し、そのまま北面の写真を撮った。木立の向こうには黒っぽい屋根が見えたが、北側の民有地にある、橘高校の橘フットサルグラウンドにある小さな建物の屋根と思われた。東北角部では、昨日調査した残石の再確認をした。特に残石の中で、礎石として使いそうな石かどうかを観点に再度確認した。上面が比較的平らで礎石として使いそうな石としては、**㉔**、**㉕**、**㉖**、**㉗**、**㉘**の 5 石と思われた。その後他のメンバーが先に松ノ丸の南東側の調査に移動していたので、南東側に移動する。南東側への移動の途中は、歩けるような地面も無い藪に入ってしまい、かなり進むのに苦労した。南東側では瓦の破片などがあった。昼前になったので、松ノ丸南東側から名護屋丸に移動する。



⑦松ノ丸北西 崖側から見る



⑦松ノ丸北西 崖側から見る



松ノ丸北辺の西寄りでの残石調査



北辺に残る石が直線状に並んでいるか検証



北辺に残る石が直線状に並んでいるか検証



北辺に残る石が直線状に並んでいるか検証



松ノ丸北辺中央部の残石調査



松ノ丸北辺中央部の残石調査



加工痕のようなものがある残石



松ノ丸北辺中央部



松ノ丸東寄り中央部



松ノ丸北辺



⑧松ノ丸北東部先端の「基準石」の磁北



⑧「基準石」からそのまま北方向の崖を見下ろす



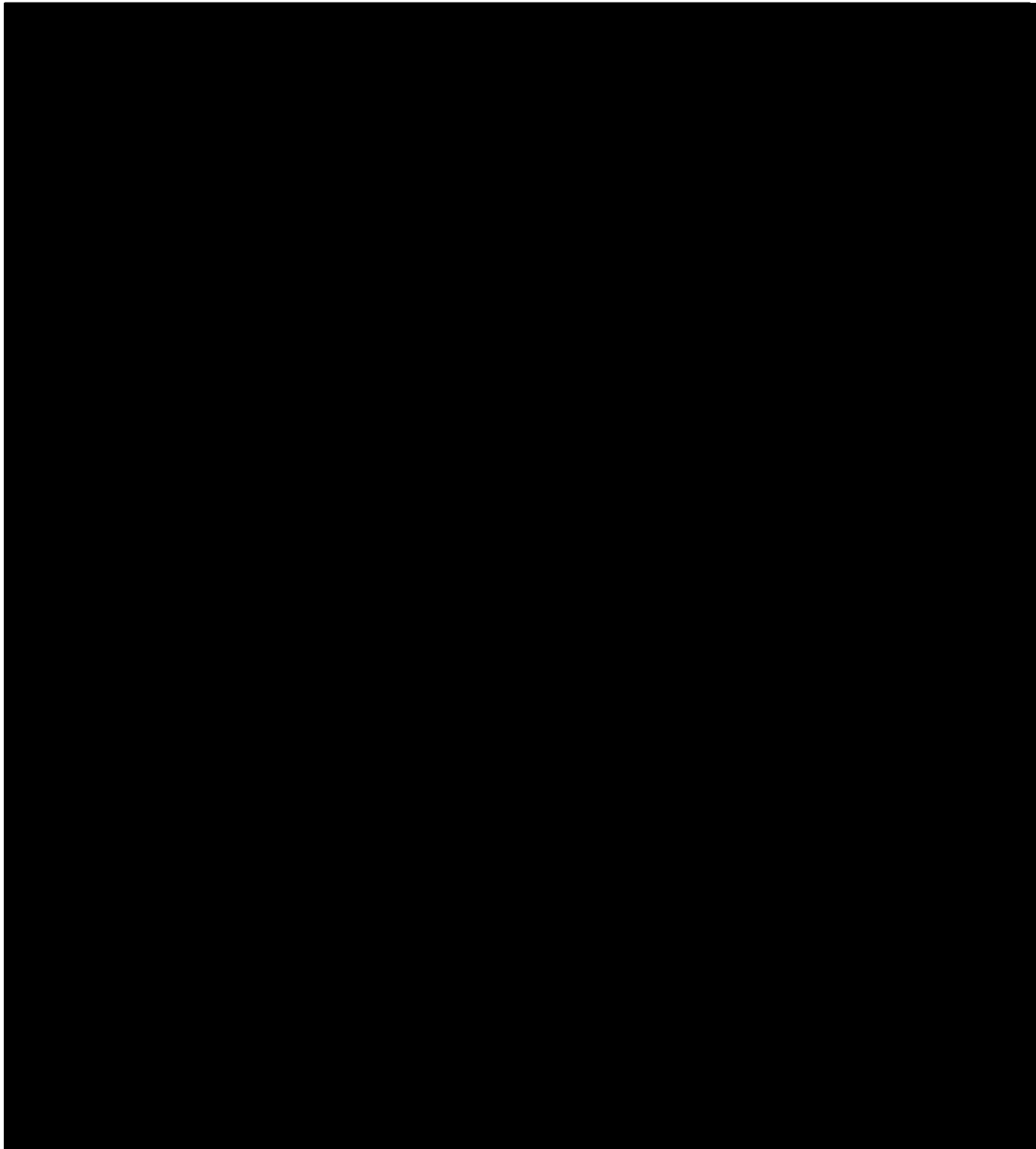
⑧「基準石」の北方向の木々の向こうに見える屋根は橋フットサルグラウンドの建物



礎石と思われる石を再確認する

名護屋丸では紅雪堀の方には降りず、中央部の道を南下し、名古屋丸の中ほどにある水の施設の横を通りすぎ、桃山東陵の北面に沿って東に進み、更に東陵の壁に沿って南下して、東陵広場の東側から出た。

【2月13日午後の調査】



2026 年 2 月 13 日午後の立入調査順路

「桃山東陵墓地 図」（陵基地形図集成〔縮小版〕/宮内庁書陵部陵墓課 編/学生社 刊）より転載
図の部分に郭名と順路を加筆

・大階段から増田右衛門尉郭の石垣

2日目の午後は14時までで終了と決められていて、時間も短いので、まだ全く入ってなかった別の郭を見る事にする。明治天皇伏見桃山陵の広場から大階段の途中を東側に入って、増田右衛門尉郭の石垣を見る(①)。ここは比較的良く石垣が残っている部分だが、乱積みで、積み方は荒いように思われた。同じ道をまた大階段まで戻る。



①増田右衛門尉郭南側の石垣



①増田右衛門尉郭南側の石垣



①増田右衛門尉郭南側の石垣



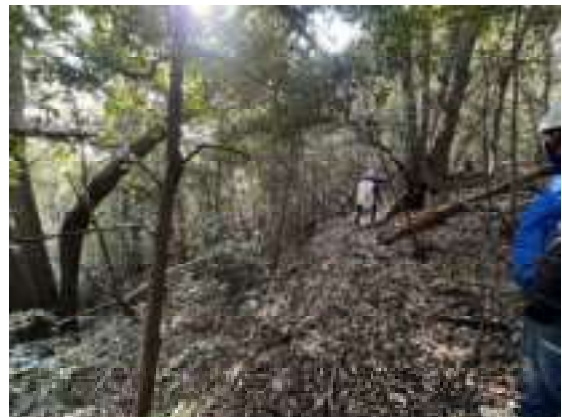
①増田右衛門尉郭南側の石垣

・二ノ丸円丘から西へ

次に伏見桃山陵西側の御休憩所脇から空堀に入り北上し、本丸への土橋のところで西に曲がり二の丸へ入る。二の丸を南西側に道なりに進むと、右手の林の向こうに円丘が見える（②）。これは古墳ではないかという説や、人工的なもので陵墓造成時にいらない土を盛り上げた場所だとか、諸説あるという話を聞く。そこから南側の崖を見る。更に道なりに南西側に進み、14時を過ぎたので調査を終了し（④）、元来た道をそのまま戻る。監区事務所に戻って御礼の挨拶をして辞する。共和、武田石材とはここで解散する。



②二ノ丸の道の木々の向こうに見える円丘



③二ノ丸の道の円丘の反対側（南側）の崖地

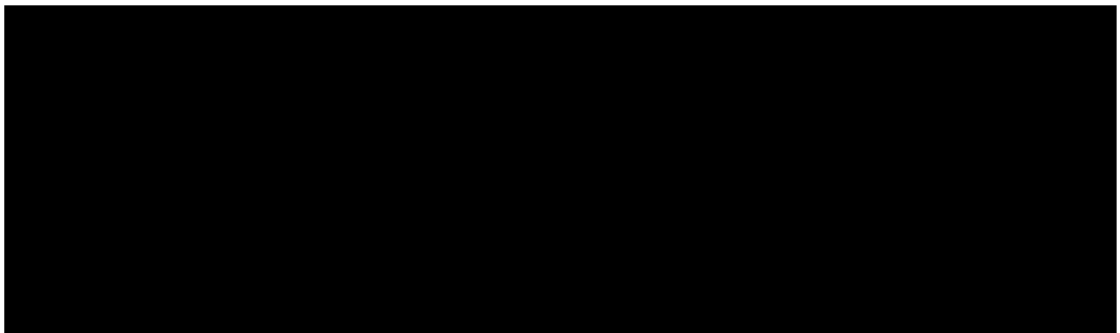


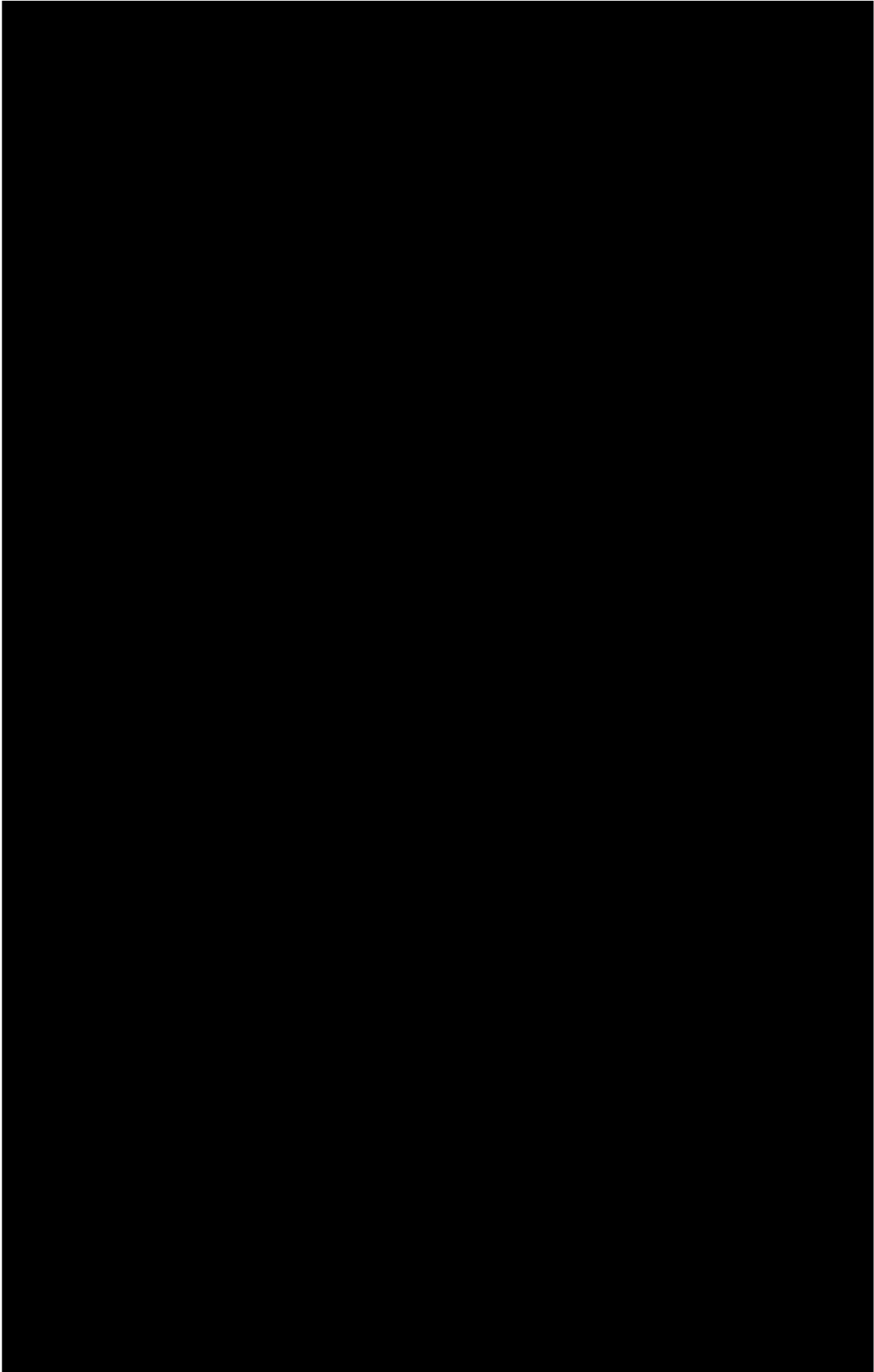
③二ノ丸の道の円丘の反対側（南側）の崖地

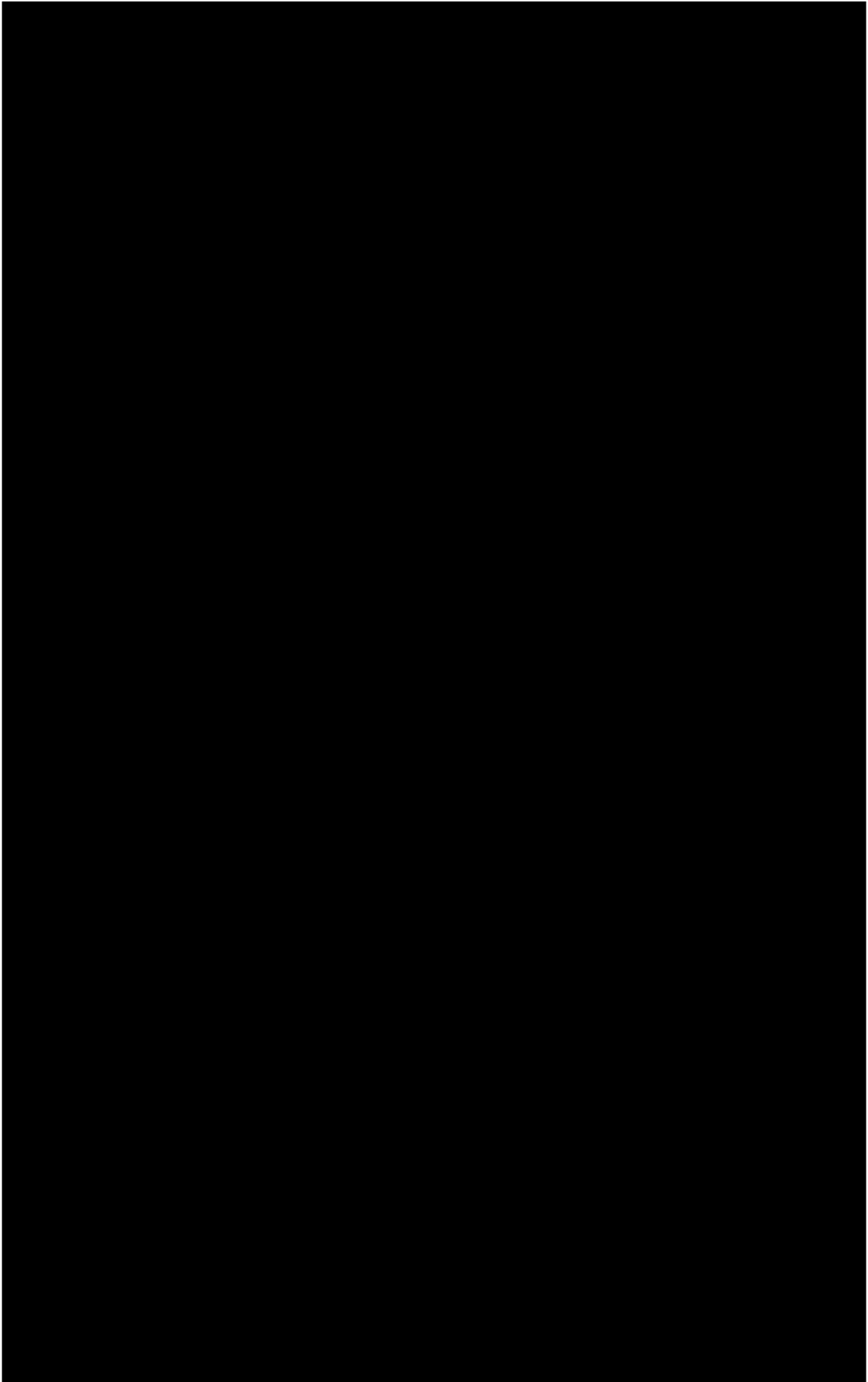


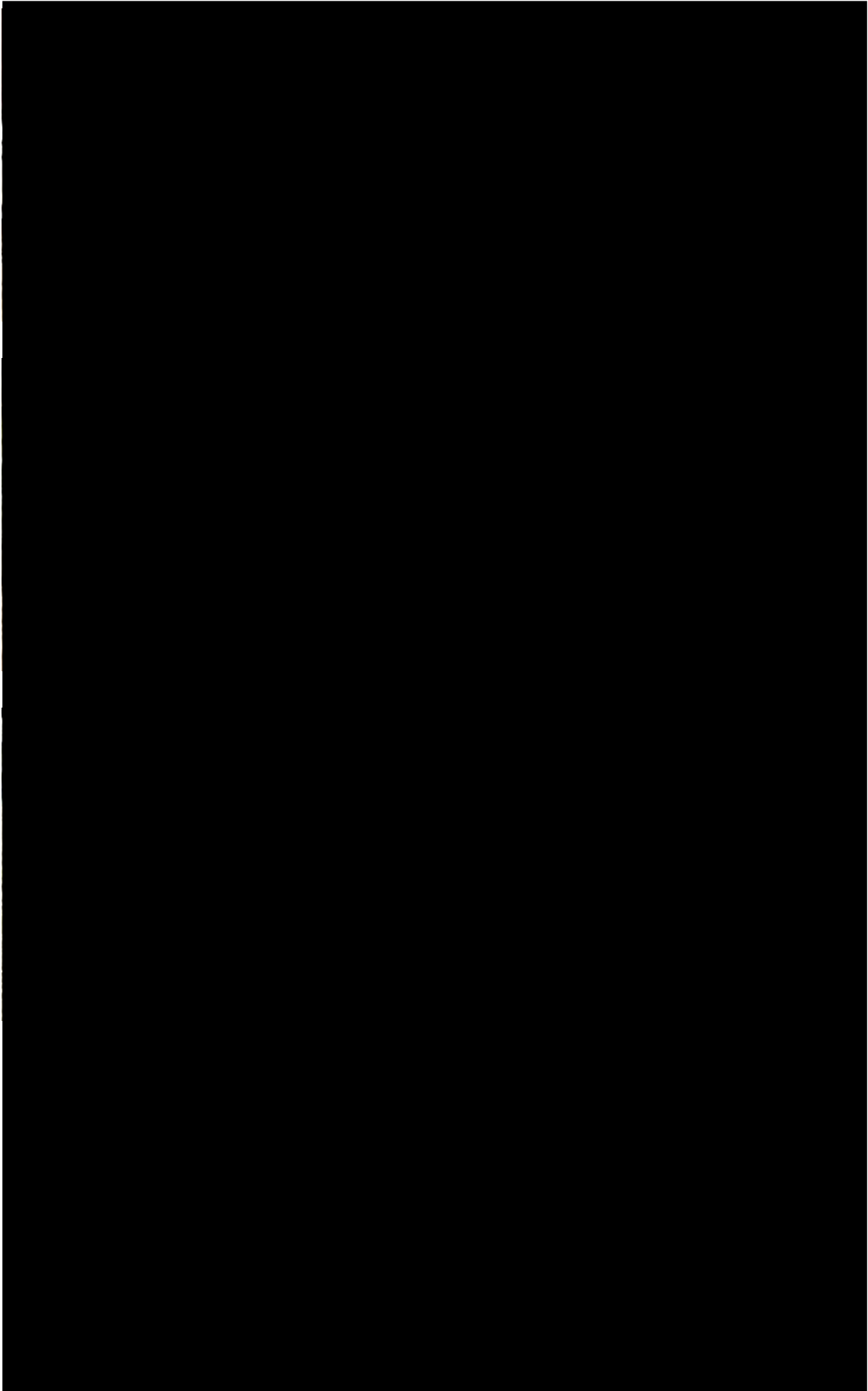
④終了予定時間が過ぎ道の途中で引き返す

・陵墓外調査：御香宮神社の調査









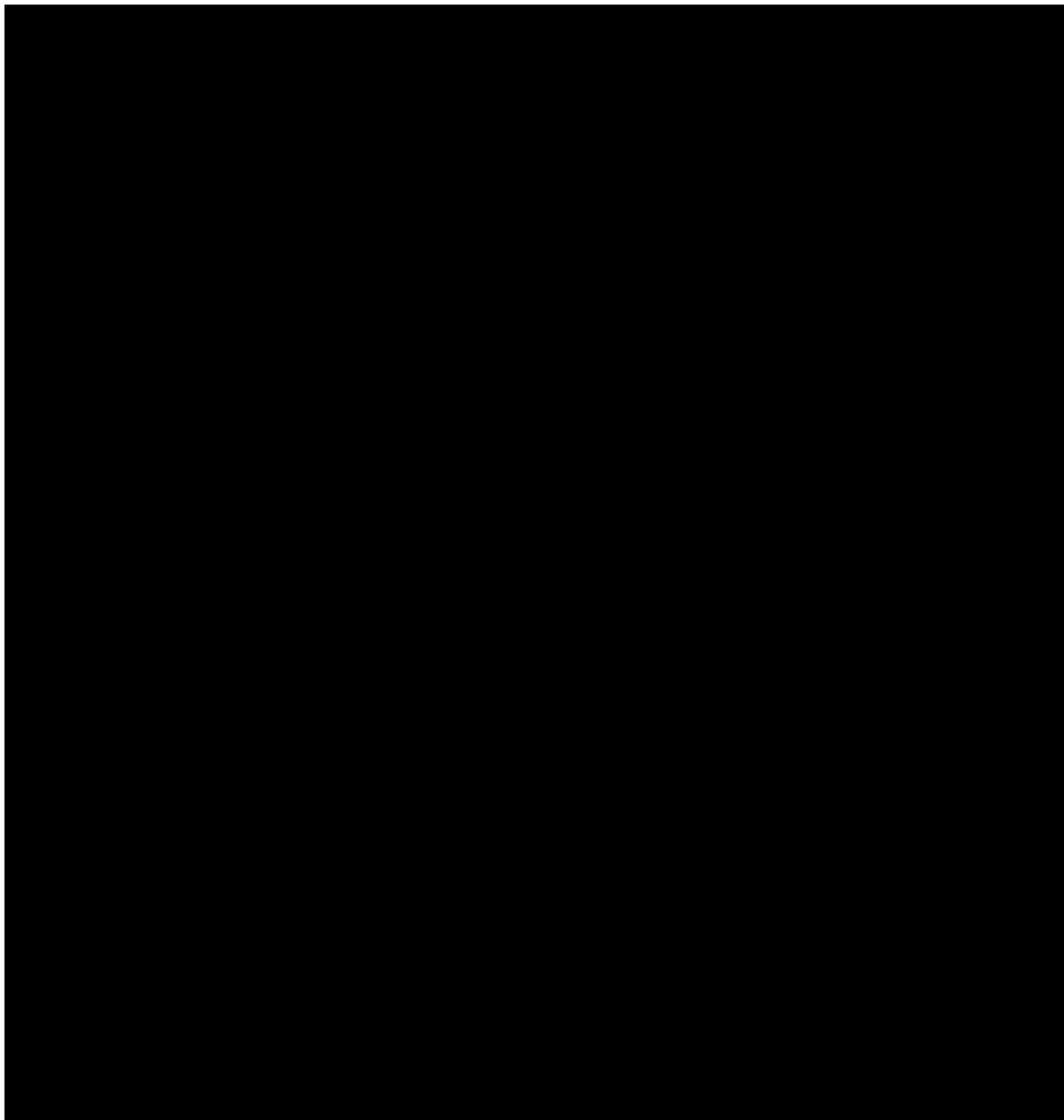
2. 松ノ丸の残石チェックリスト

※東北角地の残石は、今回調査順でアルファベット記号を割り振っている。

※東北角地の残石の表中の図 87-〇〇の番号は、大阪歴史学会「伏見城跡立入調査報告 2022」 p 127 の図 87 及び図 89 の石番号参照。

※矢穴は見えている部分のみで確認した。

※北辺の残石の配置は西寄りから順番に写真を撮っており、その順番で番号を付けている。表中の□1、□2の囲み番号は、写真に写り込んでいる紙の番号札の番号。北辺は範囲が広く、今回配置図は実測作成していない。



※伏見城跡立入調査報告/大阪歴史学会/2022/P126「図 87 東隅櫓礎石の残存状況」に
今回調査順のアルファベット記号を加筆したもの

1) 松ノ丸東北角の残石チェックリスト

松ノ丸	北東角	④ / (図 87-22)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考	石全体が地面より上に乗っている状態。花崗岩。崖先端に一番近い場所にある目立つ石。角に「く」の字型に加工した痕跡あり。	



松ノ丸	北東角	⑤ / (図 87-14)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 (不明)	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考	半分以上埋まっている。花崗岩。	



松ノ丸	北東角	◎ / (図 87-16)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> ・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・ <u>その他</u> (斜め)	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・ <u>無し</u> ・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考		

松ノ丸	北東角	⑩ / (図 87-20)
用 途	石垣・石垣の頂部・ <u>礎石</u> ・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> ・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・ <u>比較的平ら</u> ・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・ <u>比較的安定</u> ・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・ <u>無し</u> ・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考	比較的しっかりしているが、傾いて埋まっている。	
		

松ノ丸	北東角	㊦ / (図 87-19)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 (一部平らに削られている)	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 (傾いている)	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	土台を置く部分を削ったのか、と思われるような一部平らな部分があり。	



松ノ丸	北東角	㊦ / (図 87-17)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 (不明)	
上面の形状	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 (不明)	
石全体の水平感	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 (不明)	
石全体の安定感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有 ・ 無 ・ その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	殆どの部分が埋まっている。	



The photograph shows a person in a blue jacket and white helmet working on a stone structure. The stone is partially buried in the ground. Arrows labeled D, E, and F point to different parts of the stone and the surrounding area.

- Arrow D points to the top surface of the stone.
- Arrow E points to the side of the stone.
- Arrow F points to the top surface of the stone.

松ノ丸	北東角	㊄ / (図 87-23)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> (不明)	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・ <u>その他</u> (不明)	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・ <u>その他</u> (不明)	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有 ・ 無 ・ <u>その他</u> (不明)	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	殆どの部分が埋まっている。	



A photograph showing a stone structure, likely a foundation or wall, partially buried in soil and covered with dry leaves. Two black arrows point to specific features: arrow 'G' points to a vertical crack or joint on the left side of the stone, and arrow 'F' points to a vertical crack or joint on the right side of the stone.

松ノ丸	北東角	㊦ / (図 87-13)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他（ ）	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他（ ）	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他（ ）	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他（ ）	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他（ ）	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他（ ）	
矢穴の有無	有 ・ 無し ・ その他（ ）	
矢穴の寸法	幅（ ）・厚み（ ）・深さ（ ）	
備 考		

松ノ丸	北東角	① / (図 87-5)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> ・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・ <u>凹凸が大きい</u> ・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・ <u>無し</u> ・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考		



松ノ丸	北東角	① / (図 87-7)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> ・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・ <u>凹凸が大きい</u> ・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・ <u>無し</u> ・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考		



松ノ丸	北東角	㊸ / (図 87-2)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	建物の礎石には使えそう	
		

松ノ丸	北東角	㊹ / (図 87-8)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 () 全体が丸い ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 () 水平感はない ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考		
		

松ノ丸	北東角	㊸ / (図 87-1)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 (不明)	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態 (裏込石の有無)	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考		



松ノ丸	北東角	㊸ / (図 87-4)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他（ ）	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他（ ）	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他（ ）	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他（ ）	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他（ ）	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他（ ）	
矢穴の有無	有・無・その他（ ）	
矢穴の寸法	幅（ ）・厚み（ ）・深さ（ ）	
備 考	石の性質かもしれないが、割れ肌のようなひび割れが多数あり、火災痕の可能性もある。割れが無ければ上面は比較的平らなので礎石の可能性有り。	



松ノ丸	北東角	◎ / (新1)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	大きな割れ目があるが、過去の火災の為かどうかは不明	



【東北角地の残石について】

最も目立つ石が、チェックリスト④の石で、東櫓のあったであろう崖地の先端にある。ただ、あきらかに全体が地面の上に乗っている状態なので、どこかにあった石を外してここに置いてあるように見えた。石垣の石では無いと思われる。石垣の石なら、一面が比較的平らでその裏が角錐に近いような形をしているが、上面が比較的平らで、後は丸みを帯びた形状だった。石の種類は花崗岩と思われ、すぼんだ側が北を向いていた。良くある礎石らしい礎石では無いが、礎石として使えなくはない石と思われた。角に「く」の字型に人工的に加工したような痕跡があった。表面に2筋の帯のようなものが見られ、そこだけ少し滑らかになっていた。石質の違いの模様か、縄などを巻いて擦れた跡なのかは、目視だけでは判別がつかなかった。

⑤の石は半分土に埋まっており、竹の枯れ枝がかぶさっていたので写真を撮るだけでそれ以上観察しなかった。上面が比較的平らだったら礎石として使える石だったかもしれない。調査は、目印になるものが殆どない藪の中で、枯れ枝に埋もれた石を点々と見つけていく状態なので、全容が把握しにくいものだった。

⑥の石はそれほど大きくなく、形状も礎石等に使うような石では無かった。

⑦の石は、一部突起状の部分があったが、比較的平らで大きく、上面に凸凹はあるが礎石として使えなくはない石と思われた。

⑧の石は上面が平らで一部線上のくぼみあるが、礎石として加工された石のように思われた。

㊦は細長く、礎石等の為の石ではないように思われた。㊧は㊦の割れた破片かもしれないと思われた。この㊤、㊥、㊦、㊧の4つはごく近くに集まっていた。石の天端のレベルは同じくらいに思われた。

㊨は丸みを帯びた石で礎石とは思えない。

㊩と㊪は二つ近くにあったが、元の位置から外されて地面の上に置かれている状態だった。上面に凹凸があり、礎石とは思えなかった。

㊫は上面が平らで、四角とまではいかないが、比較的それに近い形に整形されており、礎石で使われた石と思われた。

㊬は丸みを帯びた面長の石で、礎石かどうかは不明。

㊭も変形した小さめの石で、礎石のような用途ではない。

㊮は上面が比較的平らだが、割れ肌のように割れ、凸凹していてもろくなっているようだった。割れてなければ礎石に使われていた石の可能性はある。割れは火災痕の可能性もあるかもしれない。

㊯は大阪歴史学会の松の丸の東隅の調査の写真には無い石だと思われる。大きなヒビが入っており三角形で、礎石に使われていた石かどうかは不明。

以上のように、松の丸の東隅櫓があったと思われる東北角に散在する残石を確認し、それぞれ、石の形状を観察して、礎石に使われるような石かどうかをチェックリストで確認した。殆ど埋まっている石もあるので、掘り出して全体の形状をよく見ないと正確な判断はできない。城郭の礎石なら、もう少し上面を平滑に加工しているのが一般的だと思われるが、文禄の頃から築城しているような場所なので、ある程度平らで礎石として使えなくも無さそうなものは礎石と判断した。

この礎石として使えるかどうかのチェックは、いくら残石を測って建物の位置を推定しても、その石が、ただ石垣から外されて転がっている石か、それとも、礎石として当初の建物の為に据えられている石かで、全く意味が異なってくるので、今回特に実施した。また、焼けた石があるかどうかもチェックしたが、殆ど見られないように思えた。ただ、㊮の石だけ、比較的上面が平らなのに割れ肌のように割れていたのは、石の種類にもよるのかもしれないが、火事で焼けた火災痕の可能性もあると思われた。

2) 松ノ丸北辺の残石チェックリスト

松ノ丸	北辺	1 / ()
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	大きさ 600×600 程度	
		

松ノ丸	北辺	2 / ()
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 (不明)	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考		

松ノ丸	北辺	3 / ()
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し 赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考	半分以上埋もれている	



松ノ丸	北辺	4 / ()
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 (埋もれているので不明)	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 ()・厚み ()・深さ ()	
備 考	半分以上埋もれている	



松ノ丸	北辺	5 / (1)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・厚み () ・深さ ()	
備 考	大きさ：750×750 程度	



松ノ丸	北辺	6 / (2)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
上面の形状	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
石全体の水平感	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の安定感	水平・比較的平ら・傾いている・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有 ・ 無 ・ その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	殆どの部分が埋もれている 6と7は隣り合っている	



6



6と7は隣り合っている

松ノ丸	北辺	7 / (3)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> ・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・ <u>凹凸が大きい</u> ・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有 ・ 無 ・ <u>その他</u> (不明)	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	殆どの部分が埋もれている 6と7は隣り合っている	
		

松ノ丸	北辺	8 / (4)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> ・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・ <u>凹凸が大きい</u> ・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> ・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有 ・ <u>無し</u> ・ その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	殆どの部分が埋もれている 8と9は隣り合っている	
		

松ノ丸	北辺	9 / (5)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> 赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・ <u>凹凸が大きい</u> ・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・ <u>安定感無し</u> ・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> 裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・ <u>無し</u> ・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	殆どの部分が埋もれている 8と9は隣り合っている	



8と9は隣り合っている



9

松ノ丸	北辺	10 / (6)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・ <u>その他</u> ()	
焼けた痕跡の有無	<u>無し</u> 赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・ <u>比較的平ら</u> ・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的水平・ <u>傾いている</u> ・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・ <u>比較的安定</u> ・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	<u>土</u> 裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・ <u>無し</u> ・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考		



松ノ丸	北辺	11 / (7)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	丸柱を2本立てたような加工痕あり 大きさ：1400×750 程度	
		

松ノ丸	北辺	12 / (8)
用 途	石垣・石垣の頂部・礎石・その他 ()	
焼けた痕跡の有無	無し・赤変・黒変・黄変・ひび割れ・その他 ()	
上面の形状	平ら・比較的平ら・凹凸が大きい・その他 ()	
石全体の水平感	水平・比較的的水平・傾いている・その他 ()	
石全体の安定感	安定感有り・比較的安定・安定感無し・その他 ()	
周囲の状態（裏込石の有無）	土・裏込石・砂利・その他 ()	
矢穴の有無	有・無し・その他 ()	
矢穴の寸法	幅 () ・ 厚み () ・ 深さ ()	
備 考	大きさ：900×600 程度	
		

【東北辺の残石について】

松ノ丸の北辺に、西から入った際に、次々と残石が見えたので、順次写真を撮って行く。大体、北辺に沿って直線上にあるようだったが、必ずしも一直線では無く、崖側にかなり埋まっているような石もいくつかあった。また、礎石として使えそうな石は、1、5、11 くらいで、多くは見られなかった。それを考えると、東北角地は、範囲の割りには比較的建物に使えそうな残石が残っている方だと思われた。北辺の残石は、本来の北辺の石垣があったであろう端から大分引いた位置にあるようだったので、塀ではなく、多門櫓や渡り櫓の基礎廻りに使われた石の可能性も考えられた。11 の石が、上面が比較的平らなのに段差が付いていて、丸柱が2本並んだような加工痕が見られた。自然に付いた形では無いと思われる。また、焼けた石があるかどうかチェックしたが、殆ど見られないように思えた。北辺は範囲が広く、限られた時間の中で石の位置までは実測できなかったのも、配置図は今回作成していない。石もまだ探せばあるように思われた。

